

個別事業説明書【PR版】

農 林 水 産 部

1 えひめ農林水産業魅力発信事業費

「えひめ愛顔の農林水産人」を活用して、愛媛の農林水産業の魅力や成功体験を積極的に情報発信し、農林水産業のイメージを「稼げる、カッコいい、感動を楽しめる」に変えることで、次世代人材の掘り起こしを図り、新たな担い手の確保につなげる。

指標	施策	17 農林水産業の生産振興 KGI 農業産出額	現状値 1,232億円（R4年） 目標値 1,200億円（R8年）
	細施策	17-1 農業・畜産業の担い手確保・育成 KGI 県内の各地域における中心的農業従事者数（認定新規就農者、認定農業者など）	現状値 4,996人（R4年度） 目標値 5,000人（R8年度）

お問い合わせ先
農林水産部農政企画局
農政課農地・担い手対策室
(089-912-2215)

事業イメージ	KPI	次世代人材掘り起こし事業の参加人数 (50人/年 増)	現状値 600人（R6年度見込） 目標値 650人（R7年度）
--------	-----	--------------------------------	------------------------------------

事業概要	【新しい地方経済・生活環境創生交付金充当事業】
------	-------------------------

愛媛の農林水産業は
稼げる、カッコいい、感動を楽しめる

えひめ愛顔の農林水産人

245組281人
農業218人、林業32人、水産業31人(R6年12月末時点)

主な活動 研修会講師、新規就農相談会相談員、研修受け入れ



SNS動画配信



農林水産人を最大限活用した農林水産業の魅力発信

- えひめ農林水産アンバサダー・えひめ農林水産レポーターの動画配信
- 「まるかじり就業支援サイト」の内容充実
- マルチメディアによる周知度UP



「まるかじり就業支援サイト」を軸とし
webからリアルへ領域を拡大

次世代を担う農林水産業者の掘り起こし

- 出前授業・就業相談会を活用した次世代育成
- 学生等が農林水産業に関わる機会の創出
- 未来の担い手に直接魅力をPRする場

1 農林水産人魅力発信事業 9,424千円

- (1) 農林水産業の魅力発信
・えひめ農林水産アンバサダーによる日常や活動の動画配信
21人（農業15人、林業3人、水産業3人）×1回/月
- (2) 女性目線での農林水産業情報の発信
・えひめ農林水産レポーターによる、農林水産人の取材動画配信
農業：5人×1回/2カ月、林業・水産業：1人×1回/年
- (3) 動画配信研修会の開催
・農林水産業の魅力発信につながる動画配信研修会の開催（本庁×1回）
参加者：「えひめ農林水産アンバサダー」「えひめ農林水産レポーター」等
- (4) マルチメディアでのPR
デジタルツールの内容充実・各種SNSの運営による、農林水産業の魅力発信
・ホームページ「まるかじり就業支援サイト」の維持管理
・SNS「えひめ農林水産まるかじり」（Facebook、Instagram）の配信・運用
・SNS等を活用したWeb広告（農林水産人活動周知・講座案内・ツアー案内等）
・アンバサダー・レポーター認知広告配信

出前授業

2 次世代人材掘り起こし事業 3,340千円

- (1) 大学・高校での出前授業
・農林水産人による愛媛農林水産業の魅力発信講座
農業：7校、林業：3校、水産業：1校
- (2) 就業相談会でのセミナー開催
・農林水産人による講義、個別相談
- (3) 農林水産業体験会
・就業希望者を対象に体験・研修を実施（既存事業）
・林凜ガールによる林業就業体験会
- (4) 進路、就職担当者との懇談
・学校関係者と農林水産人の懇談による就業への理解促進



就業セミナー



2 県産農林水産物輸出促進事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 14,322千円

日本の人口が減少し、国内市場が縮小していく中、更なる輸出促進を図るため、アジアや欧米をターゲットに、かんきつを中心としたプロモーションを強化するとともに、検疫条件等をクリアするための環境整備を支援することで、輸出の拡大を図る。

お問い合わせ先
農林水産部農政企画局
食ブランドマーケティング課
(089-912-2560)

指標	施策	18 県産品の販売力強化 KGI 県営業本部関与成約額	現状値 283.1億円（R5年度） 目標値 300億円（R8年度）
	細施策	18-3 農林水産物の競争力強化と販路拡大 KGI 農林水産物の営業実績額	現状値 153.9億円（R5年度） 目標値 150億円（R8年度）

事業イメージ	KPI 県関与かんきつ年間輸出額（輸出量） （輸出事業計画に基づいて設定）	現状値 1.2億円(175t)(R6年度見込) 目標値 1.5億円(200t)(R7年度)
--------	--	--

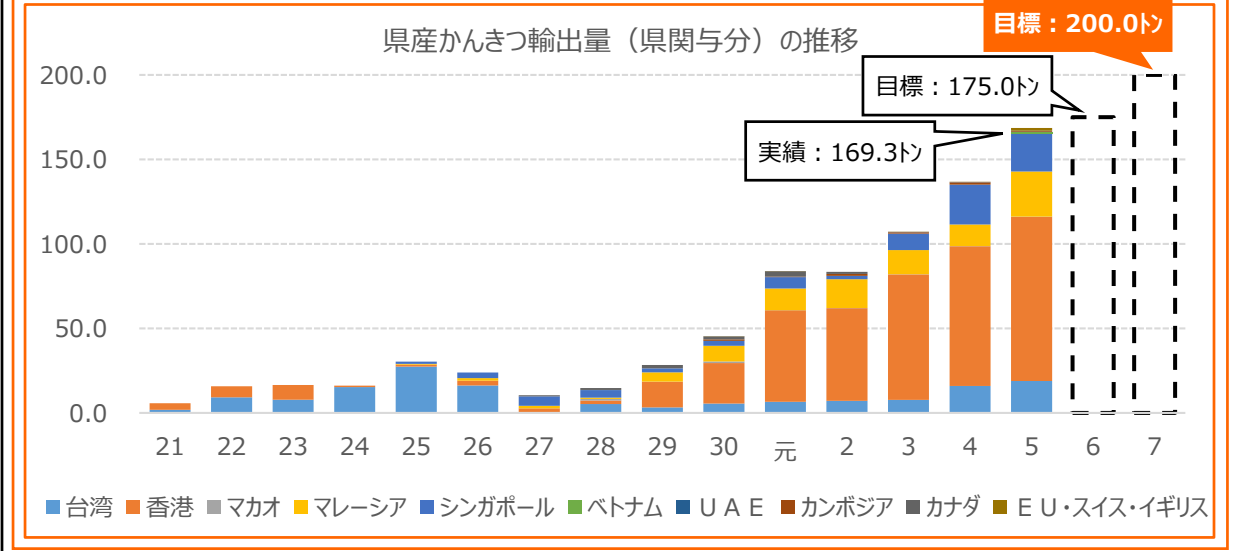
事業主体	えひめ愛フード推進機構
------	-------------

事業スキーム

主要品目である「かんきつ類」を中心に、輸出先国・地域の検疫条件や残留農薬基準に適合させながら、新たな市場や品種の掘り起こしを行い、販路開拓・拡大を図る。

- 輸出先の国・地域ニーズにマッチした品種の重点的なプロモーションの展開
- 輸出障壁の高い輸出先国・地域における検疫条件等に適合した園地の拡大
- 国際認証（グローバルギャップ）取得に向けた産地の支援

重点エリア：東アジア、東南アジア、北米、欧州（営業本部営業活動中期計画（第3期））



事業概要	【新しい地方経済・生活環境創生交付金充当事業】
------	-------------------------

1. 輸出力強化に向けたプロモーション事業（11,340千円）

- 重点エリアである「アジア」「欧米」におけるプロモーションの強化
- 台湾
これまで取り組んできた富裕層市場に加えて、新たに中間層市場で販路開拓を推進し、現地系スーパー等でのプロモーションを展開。
 - 欧州
「Misho」の海上輸送での輸出拡大を図るため、バイヤー招へい等により販路を開拓。

- (1) アジア向け輸出拡大強化事業（5,895千円）
実施先：台湾、香港、マレーシア、シンガポール、ベトナム
経 費：サンプル輸送費や現地販売員手配等 P Rに係る経費
- (2) 欧米向け輸出拡大強化事業（5,445千円）
実施先：カナダ、フランス・ドイツ・スイス・ベルギー、イギリス
経 費：バイヤー招へいや現地販売員手配等 P Rに係る経費



2. 輸出力強化に向けた環境整備事業（2,982千円）

台湾、ベトナム、EU向けを対象に、新たな品目等の輸出に取り組むモデル園地を選定・借上げて検疫条件をクリアする環境等を整備するほか、国際認証（グローバルギャップ）に適合した産地づくりを推進し、輸出産地拡大の加速化を図る。

- (1) 海外向け防除体系構築に向けたモデル園地の実証
〔台湾、ベトナム、EU〕（2,015千円）
- (2) 生産者向け説明会の実施（451千円）
- (3) 専門家による国際認証取得支援（516千円）



3 紅プリンセス生産販売強化事業（総括）

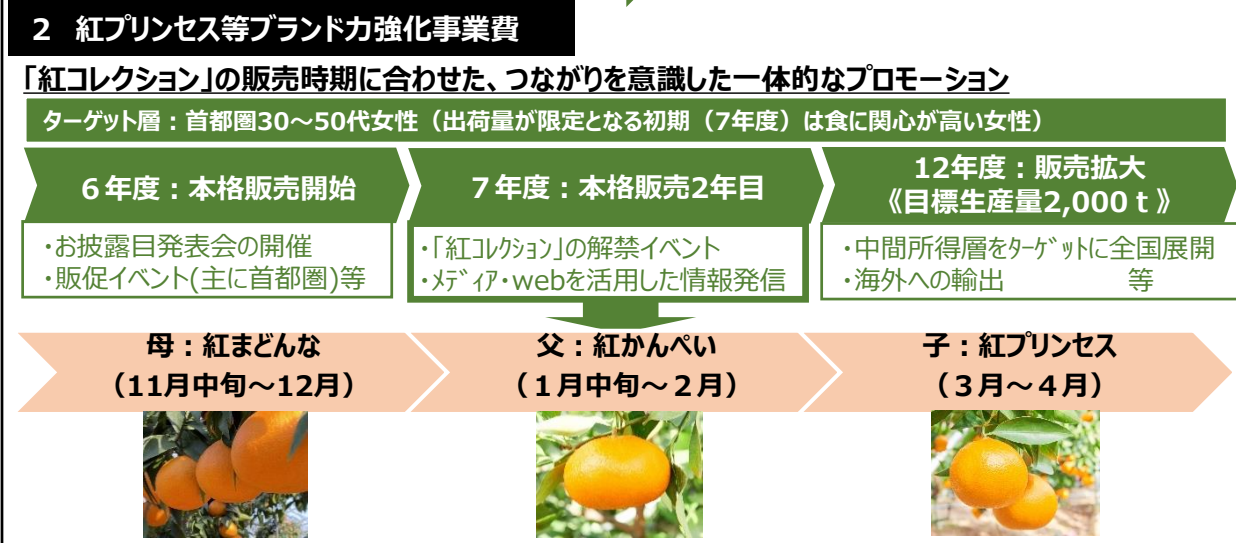
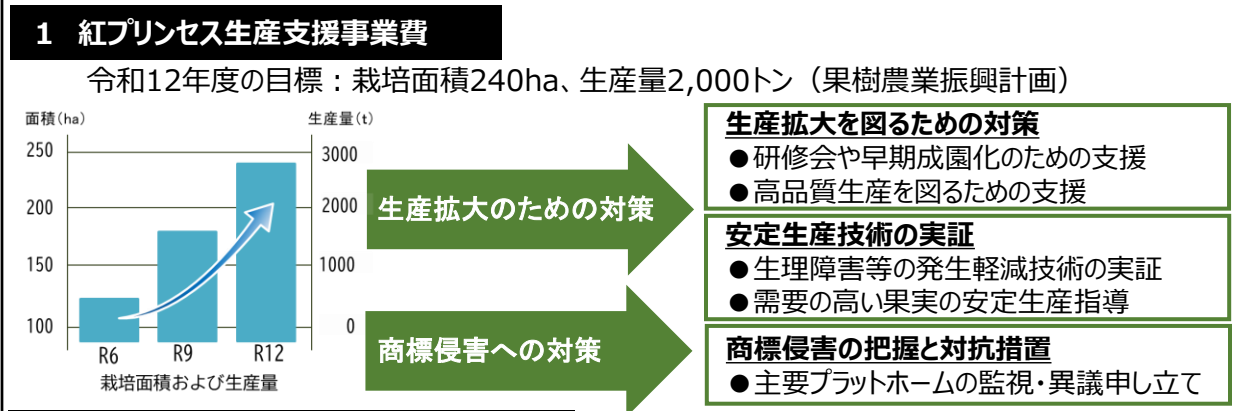
令和7年度当初予算（案）
予算額 47,429千円

本県期待のオリジナルかんきつ新品種である「紅プリンセス」の栽培面積拡大のため、施設整備支援等による生産体制の強化に取り組むとともに、令和7年3月からの本格的な出荷・販売を契機に、既存の県オリジナル品種である「紅まどんな」、「紅かんぺい」とあわせた「紅コレクション」の更なる認知度向上及びブランド力強化に取り組む。

指標	施策	17 農林水産業の生産振興	KGI	農業産出額	現状値	1,232億円(R4年)	目標値	1,200億円(R8年)
	細施策	17-4 農業の生産振興	KGI	主な農産物の生産量	現状値	329千t(R5年度)	目標値	338千t(R8年度)
	施策	18 県産品の販売力強化	KGI	県営業本部関与成約額	現状値	283.1億円(R5年度)	目標値	300億円(R8年度)
	細施策	18-3 農林水産物の競争力強化と販路拡大	KGI	農林水産物の営業実績額	現状値	153.9億円(R5年度)	目標値	150億円(R8年度)

お問い合わせ先
農林水産部農業振興局
農産園芸課
(089-912-2565)
農林水産部農政企画局
食ブランドマーケティング課
(089-912-2560)

事業イメージ	KPI	1 紅プリンセス(愛媛果試第48号)栽培面積 (計画に基づくR12：240ha達成に向けたR7の必要面積)	現状値	62.9ha(R4年度)	目標値	140ha(R7年度)
		2 県オリジナル品種の首都圏30～50代女性認知度 (ターゲット層の過半数以上の認知度を目指す)	現状値	31.8%(R5年度)	目標値	50%(R8年度)



事業概要	【農林水産業体質強化緊急対策基金充当事業】 【新しい地方経済・生活環境創生交付金充当事業】
1 紅プリンセス生産支援事業費【拡充】	34,429千円

- (1) 生産拡大支援（31,587千円）【拡充】
- 事業主体：市町（事業実施主体：JA等）
 - 補助率：県1/3以内（受益戸数：3戸以上、受益面積：概ね15a以上）
 - 事業内容 ①研修会や早期成園化のための支援（5地区） 433千円
②高品質生産のための施設整備（5地区） 31,154千円
- (2) 安定生産技術の実証（1,887千円）【拡充】
- 事業主体：県
 - 事業内容 ①生理障害等の発生軽減技術の実証（16園地×10a）
②需要の高い果実の安定生産指導
- (3) 商標侵害の把握と対抗措置（955千円）【新規】
- 主要プラットホームの監視、侵害案件に関する対抗措置（外部委託）

- 2 紅プリンセス等ブランド力強化事業費 13,000千円
- (1) 高付加価値化を目指した販促イベント等の実施（5,000千円）
- 「紅コレクション」各品種の販売開始時でのPRイベントによる露出拡大
 - 食に関心のある女性が利用する小売店を中心に、販促活動員を配した店頭プロモーション
- (2) メディア・WEBを活用した情報発信（6,000千円）
- ターゲット向けのバナー広告やギフト需要を取り込むための検索連動型広告などWEB広告の配信及びテレビでの露出
- (3) 「愛媛のかんきつ旬！旬！音頭」を活用したプロモーション（2,000千円）
- 「愛媛のかんきつ旬！旬！音頭」を活用したPRイベントの実施
- ※ えひめ愛フード推進機構への負担金 26,000千円
【内訳】県：13,000千円、全農えひめ：13,000千円)

令和7年度当初予算（案）
予算額 2,261,150千円

お問い合わせ先
農林水産部農業振興局
農産園芸課
(089-912-2565)

指標	施策	17 農林水産業の生産振興	現状値	1,232億円 (R4年)
		KGI 農業産出額	目標値	1,200億円 (R8年)
	細施策	17-4 農業の生産振興	現状値	329千t (R5年度)
		KGI 主な農産物の生産量（各振興計画に記載のある主要品目）	目標値	338千t (R8年度)

事業イメージ	KPI	温州みかんの市場販売額 (対R4販売額(110.7億円)の3.5%/年 増)	現状値	121.0億円 (R5年度)
			目標値	126.2億円 (R8年度)

【現状】

年度	戸数
平成22年	9,044
平成27年	7,587
令和2年	5,534

年度	面積 (ha)
平成22年	14,323
平成27年	12,807
令和2年	11,425

【課題】

生産者の
漸減
栽培面積
減少

- ・集出荷経費の農家負担増
- ・ドライバー不足による輸送力の低下

↓

産地の果実供給力を強化

【対策】

選果・流通の高度化

共選（選果施設）の再編
統合の推進

R5年20カ所
⇒ **R12年目標10カ所**

先端技術を備えた選果機
の導入

AI選果機、パレット出荷システム

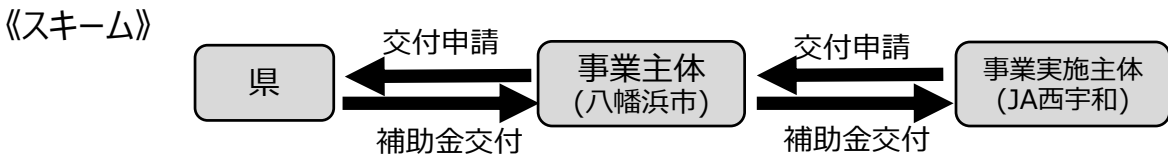
・県1JAを見据えた**広域選果体制整備**
・**スケールメリット**による供給力強化
・農家一戸当たりの**集出荷経費**を抑制

・**2024年問題への対応**
・**家庭選果の削減**、選果場の省人化
・消費者ニーズへの対応

柑橘王国えひめの発展

```
graph LR; A[共選（選果施設）の再編  
統合の推進  
R5年20カ所  
⇒ R12年目標10カ所] --> B[・県1JAを見据えた広域選果体制整備  
・スケールメリットによる供給力強化  
・農家一戸当たりの集出荷経費を抑制]; C[先端技術を備えた選果機  
の導入  
AI選果機、パレット出荷システム] --> D[・2024年問題への対応  
・家庭選果の削減、選果場の省人化  
・消費者ニーズへの対応]; B --> E[柑橘王国えひめの発展]; D --> E;
```

事業概要	【農林水産業体質強化緊急対策基金充当事業】
※国の事業を活用したうえで県費負担を行う	
かんきつ流通施設強化支援事業	2,261,150千円
趣 旨：広域選果体制を構築し、先端技術を導入した施設整備を支援	
採 択 要 件：以下の全てに取り組む集出荷貯蔵施設の整備であること	
①施設の再編統合 ②AI選果機の導入 ③2024年問題への対応	
国 補 助 率：1/2以内(強い農業づくり総合支援交付金活用)	
県 補 助 率：1/10以内又は市町交付の補助金額のいずれか少ない額	
※ 県補助限度額：5億円（1事業当たり）	
事 業 主 体：八幡浜市（事業実施主体：西宇和農業協同組合）	



年度	令和 6 年度												令和 7 年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
建物																								
選果施設																								
出荷施設																								
貯蔵・予措施設																								
総事業費	2,681,900千円（41％）												3,922,300千円（59％）											



5 共同利用施設再編集約合理化推進事業費

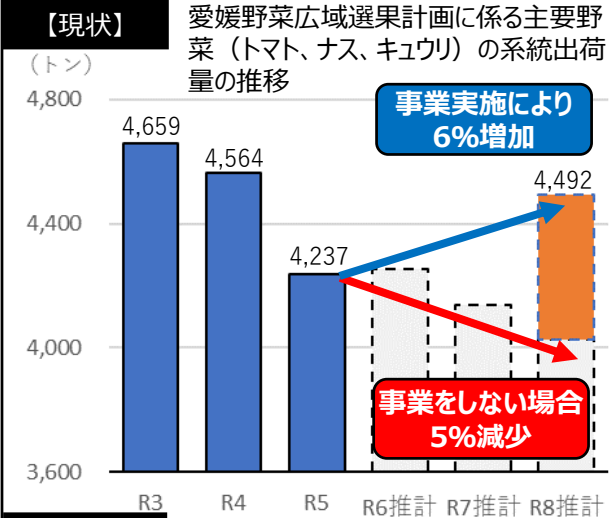
令和6年度2月補正予算（案）
予算額 885,900千円

生産者の減少、耕作放棄地の増加に対応し、農産物の供給能力の維持や生産体制を一層強化するため、地域農業を支える老朽化した共同利用施設の再編集約・合理化を推進する産地の取組みに要する経費の一部を支援する。

お問い合わせ先
農林水産部農業振興局
農産園芸課
(089-912-2565)

指標	施策	17 農林水産業の生産振興 KGI 農業産出額	現状値	1,232億円（R4年）
	細施策	17-4 農業の生産振興 KGI 主な農産物の生産量（各振興計画に記載のある主要品目）	目標値	1,200億円（R8年）

事業イメージ	KPI	愛媛野菜広域選果計画に係る主要野菜の出荷量 (トマト、ナス、キュウリの対R5年度比6%増を目指す)	現状値	4,237t（R5年度）
			目標値	4,492t（R8年度）



【課題】

産地の生産基盤の低下

- ▶ 県内の共同利用施設（選果場）の老朽化
- ▶ 野菜生産者及び栽培面積の減少
- ▶ 市場のシェアの減少による販売力の低下
- ▶ 配車効率・積載率の悪化による物流コストの増

国の新たな方針

- ▶ 新たな「食料・農業・農村基本計画」を策定し、**生産基盤の強化**を目指すため、**共同利用施設の再編集約・合理化を強固に進める方針**
- ▶ **再編集約・合理化を加速化**させるため、**県と一体で追加的な支援**を行う補助事業を措置

【対策】

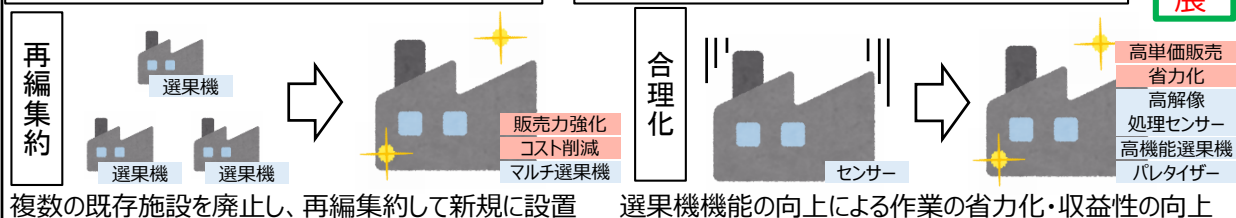
課題解決のため、全農えひめが中心となって、**愛媛野菜広域選果計画を策定**

- ▶ 中予：野菜広域集出荷施設（松前）
拠点集出荷施設（久万高原）
- ▶ 東予：拠点集出荷施設
- ▶ 南予：拠点集出荷施設

県は、国と一体となって再編集約・合理化を進め、野菜の生産基盤の強化を図るため、以下の条件により上乗せ支援を実施

- ▶ 愛媛野菜広域選果計画に位置づけ
- ▶ 関係する市町が計画に同意し支援
- ▶ 整備した施設は自ら計画的に修繕・更新

産地の維持・発展



事業概要

1 野菜共同利用施設の再編集約・加速化（2か年） 618,000千円

整備内容：広域選果・流通体制を構築する施設整備
(R7 建物、冷蔵設備一式 R8 選果設備一式 等)

国補助率：55%（県が5%上乗せする場合に、国も5%上乗せ）

県補助率：5%（R7 51,500千円）

事業主体：愛媛野菜広域事業コンソーシアム

（事業実施主体）※構成員：JA全農えひめ、関連JA、生産者、実需者（市場関係者）等

「整備スケジュール」

年度	令和7年度												令和8年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
建物																								
冷蔵設備																								
選果設備																								
既存施設の撤去																								
総事業費	1,030,000千円（うち国費566,500千円、県費51,500千円）												610,000千円（うち国費335,500千円、県費30,500千円）											

2 野菜共同利用施設の合理化・加速化（1か年） 267,900千円

整備内容：生産者の経営安定等に資する高機能選果機整備
(R7 高解像処理センサー選果機、パレタイザー 等)

国補助率：55%（県が5%上乗せする場合に、国も5%上乗せ）

県補助率：5%（R7 22,325千円）

事業主体：久万高原町（事業実施主体：松山市農業協同組合）

「スキーム」





6 鳥獣害防止施設整備強化事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 19,000千円

野生鳥獣による農作物被害が、これまで出没が少なかった侵入防止柵未設置圃場で新たに発生しているほか、新たな獣種による被害が拡大していることから、侵入防止柵の新規整備や獣種に応じた既存柵の改良等に要する経費の一部を補助する。

お問い合わせ先
農林水産部農業振興局
農産園芸課
(089-912-2565)

指標

施策

17 農林水産業の生産振興

KGI

農業産出額

現状値

1,232億円（R4年）

目標値

1,200億円（R8年）

細施策

17-4 農業の生産振興

KGI

主な農産物の生産量（各振興計画に記載のある主要品目）

現状値

329千t（R5年度）

目標値

338千t（R8年度）

事業イメージ

KPI

本事業に取り組む圃場の野生鳥獣による
農作物被害件数

現状値

－

目標値

0件（R8年度）

事業概要

鳥獣害防止施設整備強化事業

19,000千円

1 補助対象

（1）侵入防止柵等の新規整備

11,300千円

（2）集落点検結果に基づく既存柵の改良・地際補強整備

7,226千円

2 事業主体（事業実施主体）

市町（市町地域協議会等）

3 要件

◆新規整備の場合は受益戸数が2戸以上（ただし、認定農業者、認定新規就農者等は1戸以上）

◆既存柵の改良・地際補強等の場合は集落点検結果を作成し、優先度の高い対策を選択し実施

◆国補事業の対象とならないこと 等

4 補助率 3分の1以内

【スキーム】

（補助金交付）

県

市町

（補助金交付）

市町地域協議会、J A、
認定農業者、認定新規就農者等

【これまでの取組】

鳥獣害対策
3本柱

攻め

- ・捕獲資材の整備支援
- ・捕獲技術の向上支援
- ・捕獲奨励金交付 等

地域体制づくり

- ・えひめ地域鳥獣管理専門員
等人材の育成強化
- ・捕獲隊の活動支援
- ・ジビエ利用の推進 等

守り

- ・イノシシ等を中心とした侵入防止柵の
整備
- ・集落ぐるみの追い払い
- ・新たな忌避資材の実証 等

【近年の被害状況】

獣種別の被害額の推移

◆粘り強い対策により全体の被害額は減少傾向

（百万円）

- ・イノシシは減少傾向で
あるが高止まり
- ・サルやシカ、ハクビシン等
の中型獣は被害拡大

	H28	R2	R5	(H28比)
イノシシ	268	207	190 (71%)	
サル	27	33	30 (110%)	
シカ	15	16	19 (126%)	
中型獣	33	37	37 (110%)	
鳥類	93	73	69 (75%)	
被害額計	436	366	345 (79%)	

※H28が被害額のピーク

被害の変化（農業生産者等の声）

- ▶イノシシの出没が少なかった侵入防止柵未設置圃場で新たに被害発生（**生息域の拡大**）
- ▶設置済のワイヤーメッシュ柵（イノシシ用）では対応できないサル、シカ、中型獣の被害拡大（**柵を飛び越える、よじ登ることで被害拡大**）
- ▶柵の老朽化や地際からのイノシシ等の侵入による被害の拡大を懸念

被害拡大
の恐れ

【今後の取組（必要な強化策）】

鳥獣害対策3本柱の継続

- ・捕獲の促進
- ・鳥獣害対策に係る人材育成強化等
- ・**侵入防止柵等の整備強化**



愛媛の農作物を守る！

「守り」
を強化

- 受益戸数等により
国事業の対象とならない者等へ侵入防止柵等の新規整備を支援【継続】
- 市町や県等の支援のもと地域で連携して行う集落点検の結果に基づく、獣種に応じた既存柵の改良や補強を支援【新規】



7 観賞用枝物類産地支援事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 7,362千円

観賞用枝物類は、県の花き生産の振興において重要な品目であることから更なる規模拡大を目指すとともに、近年増加している老木の計画的な改植を促すため、種苗費及び資材費に係る経費の一部を補助し、産地の発展を図る。

お問い合わせ先
農林水産部農業振興局
農産園芸課
(089-912-2565)

指標	施策	17 農林水産業の生産振興 KGI 農業産出額	現状値 1,232億円（R4年） 目標値 1,200億円（R8年）
	細施策	17-4 農業の生産振興 KGI 主な農産物の生産量（各振興計画に記載のある主要品目）	現状値 329千t（R5年度） 目標値 338千t（R8年度）

事業イメージ

KPI	観賞用枝物類の出荷量 (R9年度2,020万本を達成するためのR8年度目標値)	現状値 1,250万本（R5年） 目標値 1,800万本（R8年）
------------	--	--------------------------------------

枝物類の生産の現状

- ▶ 県内の枝物類は、仏花として需要のあるシキミを中心とした産地であったが、柑橘経営の補完や水田転作品目として生産が可能な**洋木系の枝物類**に注目が集まっている。
- ▶ 気象・土壌条件との相性がよく、生産者の技術向上もあって生産が拡大。市場評価も高まり、ユーカリ等においては、**全国的な認知度をもつ産地へと成長**。



目指す姿と課題

全国の枝物類産出額は
R4年/R元年＝130%

- ▶ 枝物類は、全国的にも需要が高くなっており、今後、**県花き生産を振興するためには、枝物類の出荷量をさらに増加させることが必要**

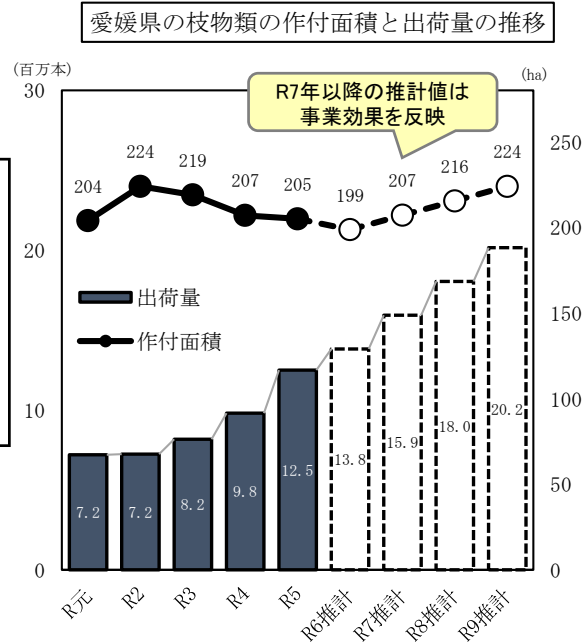
しかし!! 今、対策をしなければ...

- ▶ 老木の増加により、改植を促さなければ**出荷量が減少**
- ▶ 多品目の導入が進まないと**周年供給や需要の変化に柔軟に対応できない**
- ▶ 新規栽培者は導入を躊躇するため**出荷量が増加しない(未収益期間が障害となる)**
- ▶ 苗木の生育不良や除草作業を軽減しなければ**規模拡大できない**

対策

出荷量の増加に必要な種苗導入や苗木の栽培管理を省力化する被覆資材等の導入を支援

**枝物類の出荷量を増加させ
産地を発展させる!**



事業概要

観賞用枝物類産地支援事業

7,362千円

1 事業内容

(1) 種苗導入支援事業

枝物類の栽培に必要な種苗導入経費を支援

(2) 安定生産技術拡大事業

枝物類の安定生産を図るための資材の導入を支援

2 事業対象者

農業協同組合等

3 補助率

1 / 3 以内

4 採択要件

- ・R7年4月からR8年2月の間に購入した種苗・資材であること
- ・導入した枝物類について、今後5年間の営農の意思がある又は後継者等に事業継承する意思があること
- ・安定生産技術拡大事業に取り組む場合は、種苗導入支援事業にも取り組むこと
- ・他の補助事業との併用は不可

5 スキーム





8 ひめの凜産地強化支援事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 48,262千円

高温耐性のある「ひめの凜」の更なる生産拡大を目指し、優良種子等の供給体制の強化や良食味米生産を目的とした生産体系の確立など、令和10年の作付目標2,000haに対応した生産基盤の強化を図るとともに、「ひめの凜」を高く評価する首都圏のお米マイスターと連携した高級米としてのブランド化と新たな販路の確保に取り組み、「ひめの凜」を核とした儲かる水田農業の確立を目指す。

お問い合わせ先
農林水産部農業振興局
農産園芸課
(089-912-2565)

指標	施策	17 農林水産業の生産振興 KGI 農業産出額	現状値 1,232億円（R4年） 目標値 1,200億円（R8年）
	細施策	17-4 農業の生産振興 KGI 主な農産物の生産量(各振興計画に記載のある主要品目)	現状値 329千t（R5年度） 目標値 338千t（R8年度）

事業イメージ

KPI ひめの凜の作付面積
(高温耐性の劣る品種の約半分(1,000ha)を収益性の高いひめの凜へ転換(R10)するための必要面積)

現状値	1,006ha (R6.10時点)
目標値	1,500ha (R8年度)

年度	作付面積 (ha)	認定栽培者数 (人)
R0年産	64ha	(110人)
R2年産	123ha	(179人)
R3年産	312ha	(309人)
R4年産	505ha	(467人)
R5年産	670ha	(556人)
R6年産	1,006ha	(993人)
R7年産	1,250ha	(1,300人)
R8年産	1,500ha	(1,600人)
R9年産	1,750ha	(1,900人)
R10年産	2,000ha	(2,200人)

【これまでの取組】
・作付定着や高品質生産への支援
・県外向けプロモーションを含んだPRを実施

【成果】
・R6作付面積目標 **1,000ha達成**
・消費者や販売業者が **良食味米として認知**

【今後の方向性】
・高温耐性のあるひめの凜への更なる転換により、収益性向上
・首都圏等を中心とした高級米としてのブランド化

【作付面積2,000ha（R10年）の達成に向けての課題】

【課題①】 ＜優良種子等供給体制の強化＞

- ・種子センター、JA育苗センターの機能強化
- ・種子生産者の農業機械の整備

【課題②】 ＜生産拡大に対応した良食味米生産体系の確立＞

- ・2,000haの作付拡大に対応した栽培指導と情報提供
- ・食味の「見える化」による食味評価の向上
- ・認定栽培者制度の改善

【課題③】 ＜高級米としてのブランド化＞

- ・お米マイスターと連携した販路確保
- ・高級米としてのブランド化と高級飲食店等での販路確保

栽培管理システムを活用した技術指導

生育予測技術のデジタル化

味度計による食味の数値化

事業概要

【新しい地方経済・生活環境創生交付金充当事業】

- 優良種子等供給体制強化事業** **18,306千円**
作付目標2,000haに必要な優良種子及び優良苗の生産に係る施設や機械の整備を支援する。
(1) 事業主体(実施主体)：全農えひめ、市町(JA、種子組合) (2) 補助率：1／3
(3) 内容：種子センターとJA育苗施設の施設整備、種子生産のための機械整備
- 良食味米生産体系確立事業** **18,156千円**
消費者や販売業者の食味評価を高めるため、ひめの凜が持つ良食味のポテンシャルを最大限に発揮できる良食味米生産体系の確立を図る。
(1) 新たな栽培管理システムの導入と生育予測技術のデジタル化によって、増加する栽培者への技術指導の効率化及び栽培技術の高位平準化
(2) 味度計を活用した食味評価の「見える化」による栽培技術の向上
- ブランド確立支援事業** **11,800千円**
ひめの凜を高く評価する「お米マイスター」と連携し、高級米としてのブランド化を図るとともに、ターゲットを絞った販路確保等に取り組む。
(1) お米マイスターと連携したブランド化や高級米としての販路拡大（委託事業）
(2) 首都圏等における高級飲食店への販路確保、ECサイトでの販路拡大（委託事業）
(3) ホームページによる情報発信（委託事業）
(4) 県内での販売拡大（愛媛県米麦振興協会負担金）

《スキーム》

```
graph LR
    Pref[県] -- "(補助金)" --> AllEhime[全農えひめ]
    Pref -- "(補助金)" --> Municipalities[市町]
    Pref -- "(委託料・負担金)" --> Private[民間]
    AllEhime --> Project1[1の事業]
    Municipalities --> Project2[1の事業]
    Private --> Project3[3の事業]
```



9 畜産生産基盤維持強化支援事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 38,000千円

畜産生産基盤を強化するため、畜産施設等の機能向上に向けた整備や、地域と調和した経営を図るための機械の取得等に必要な経費の一部を補助する。

お問い合わせ先
農林水産部農業振興局
畜産課
(089-912-2575)

指標

施策

17 農林水産業の生産振興

KGI

農業産出額

現状値

1,232億円（R4年）

目標値

1,200億円（R8年）

細施策

17-5 畜産の生産振興

KGI

家畜（牛、豚、鶏）の飼養頭羽数

現状値

3,467千頭羽（R5年度）

目標値

3,083千頭羽（R8年度）

事業イメージ

KPI

支援を受けた前年度を基準に収益伸び率が1%増/年となっている畜産農家の割合

現状値 -
目標値 100%（R8年度）

【現状】

○廃業農家の増加による生産基盤崩壊の危機

- ・高齢化、後継者不足、経営に係る労働力不足、負担の増加
→この5年間で約17%の農家が経営離脱

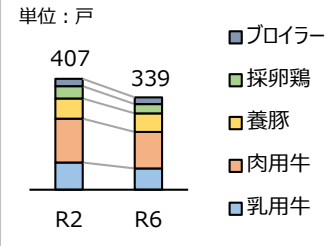
- ・飼料、資材の高騰により経営を圧迫

→経営維持が精一杯で、施設の更新等への投資が困難

○混住化による地域環境への配慮の重要化

- ・苦情のうち約3割が新規案件

→より高度な家畜ふん尿処理が求められる



経営継続に向けた、既存施設の機能向上、長寿命化が必要

- ・猛暑を乗り切るために冷却装置をつけたいけど、今のままでは付けない、畜舎の改修が必要だ・・・
- ・もっと良い堆肥を作って、販売先を増やしたいな・・・
- ・共同堆肥舎の受入量を増やしたいな・・・

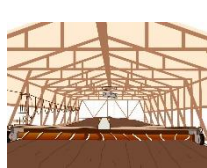
意欲ある農家等



畜舎の改修と付帯する設備の導入



堆肥舎の改修と性能がアップした処理機械の取得



収益の確保

畜産生産基盤の維持・強化

事業概要

【新しい地方経済・生活環境創生交付金充当事業】
【農林水産業体質強化緊急対策基金充当事業】

1 畜産施設改修支援

25,000千円

既存施設の機能向上や長寿命化等に係る改修や増築、付帯設備の導入に対する支援（工事費を含む）

【対象者】今後も畜産経営を続ける意欲のある畜産農家等

【補助率】1/3以内（上限2,000千円/件または3,000千円/件※）

※対象者のうち、事業実施年度を起点に過去5年以内に就農した者

2 地域環境に配慮した堆肥生産支援

8,000千円

地域環境に配慮した堆肥処理等の畜産環境設備機器の取得に対する支援

【対象者】1の取組みを実施する畜産農家等

【補助率】1/3以内（上限2,000千円/件）

3 共同利用堆肥センターの機能向上支援

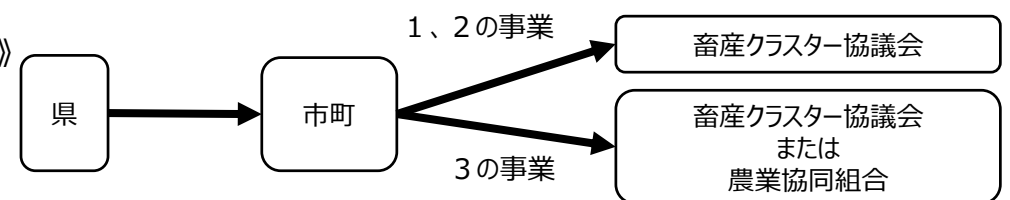
5,000千円

共同利用堆肥センターの良質堆肥の製造に係る施設等の改修、機械の取得に対する支援

【対象者】畜産クラスター協議会会員を含む5戸以上の畜産農家が利用する施設等を管理する農業協同組合または畜産農家等

【補助率】1/3以内（上限5,000千円/件）

《スキーム》



【事業実施期間】 令和7年度～令和9年度

10 県ブランド畜産物実需加速化事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 6,597千円

県開発ブランド畜産物（愛媛あかね和牛、愛媛甘とろ豚、媛っこ地鶏）について、3畜ごとの需要に対応した販売促進活動を実施し、実需の加速化を図る。

指標

施策

18 県産品の販売力強化
KGI 県営業本部関与成約額

現状値 283.1億円（R5年度）
目標値 300億円（R8年度）

細施策

18-3 農林水産物の競争力強化と販路拡大
KGI 農林水産物の営業実績額

現状値 153.9億円（R5年度）
目標値 150億円（R8年度）

お問い合わせ先
農林水産部農業振興局
畜産課
(089-912-2575)

事業イメージ

KPI 県ブランド畜産物の出荷額
(65百万円/年 増を目指す)

現状値 770百万円（R6年度見込）
目標値 940百万円（R8年度）

事業概要

【新しい地方経済・生活環境創生交付金充当事業】

現状分析

愛媛あかね和牛

R5生産実績：179頭
R6生産見込：200頭

愛媛甘とろ豚

R5生産実績：8,500頭
R6生産見込：9,000頭

媛っこ地鶏

R5生産実績：47,000羽
R6生産見込：48,000羽

新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響によりそれぞれの販売課題があり、伸び悩んでいる。

○メイン取引先：精肉販売店
・県内常時取扱店に限られる
・物価高騰の節約志向により和牛精肉取扱量が減少

○メイン取引先：量販店
・県内量販店には浸透
・県外量販店は、過去5年での取扱伸び率が18.1%と高い

○メイン取引先：飲食店
・コロナ禍で外食需要が減
・県外飲食店は取引回復への取り組み支援が必要

アプローチ先

県内宿泊施設・飲食店&精肉店 県外量販店&飲食店 県外飲食店

ハイブリッドプロモーション

メニューフェア

リレー販売

イベント出展

試食販売

営業支援

対面 デジタル 相互連携

Instagram 情報発信

+ 各種キャンペーン（マストバイ・プレゼントなど）

効果

○県内での地位定着
○県内取扱店の増加
[R6進捗]量販・精肉店の増

○県外でのさらなる取引拡大
[R6進捗]県外量販店の取引増

○県外飲食店での取引回復
& 拡大
[R6進捗]関西圏飲食店の取引増

ブランド畜産物の出荷額増

1 えひめ3畜実需加速化事業 4,449千円

3畜ごとに求められる取引相手に個別プロモーションを展開することで、実需の加速化を図る。

(1) 愛媛あかね和牛の拡大対策

県内の旅館ホテル等の宿泊施設と飲食店でのメニューフェアの開催や、県内精肉店でのリレー販売により、県ブランドとしての地位定着を図る。

(2) 愛媛甘とろ豚の拡大対策

県外量販店・飲食店等の実店舗において、マネキンによる試食販売やマストバイ等の各種キャンペーンを展開することで取引拡大を図る。

(3) 媛っこ地鶏の拡大対策

県外飲食店を軸にメニューフェアや各種キャンペーンに加え、県ゆかりの飲食店への営業や生産者の個別営業をサポートし、取引拡大を図る。

2 デジタルパブリシティ事業 2,148千円

公式Instagram「えひめ3畜」を活用した県産畜産物の魅力訴求に繋がる情報発信に取り組む。

《スキーム》

県

委託

民間事業者
生産者団体

委託期間：令和7年6月～令和8年2月を予定

11 県産畜産物消費拡大応援事業費

物価高騰に伴う生活防衛意識の高まりによる消費減退や全国的な鳥インフルエンザの発生による供給不安の影響を受ける県内畜産農家の経営安定を図り、県内畜産生産基盤を維持するため、県産畜産物の消費拡大プロモーションを実施し、消費の底上げに取り組む。

指標	施策	17 農林水産業の生産振興 KGI 農業産出額	現状値 1,232億円（R4年） 目標値 1,200億円（R8年）
	細施策	17-5 畜産の生産振興 KGI 家畜（牛、豚、鶏）の飼養頭羽数	現状値 3,467千頭羽（R5年度） 目標値 3,083千頭羽（R8年度）

お問い合わせ先
農林水産部農業振興局
畜産課
(089-912-2575)

事業イメージ	KPI 県産畜産物の生産量 (R6年度生産量の維持を目指す)	現状値 85,847 t（R6年度見込） 目標値 85,847 t（R7年度）
--------	-----------------------------------	--

現状

物価高騰に伴う生活防衛意識の高まりにより
畜産物の消費が減退

食料品の値上げに伴う消費行動の変化

安い価格帯の商品に変えた	64.9%
購入量を減らした	56.3%
まとめ買いなど割安に購入した	42.7%
その他	28.9%

※(株)日本政策金融公庫「消費者動向調査(R6.7月)」(いずれも複数回答あり)

課題

取引量の減少・取引価格の低下により**畜産農家の経営が悪化**
鳥インフルエンザの県内発生に伴う**供給・消費への不安感**

対策

県内消費者の**県産畜産物消費を喚起**

県内消費者に対し県産畜産物の魅力発信を行い、消費拡大を図る

1世帯当たりの購入数量(kg・% /年)

品目	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
生鮮肉	78%	82%	80%	78%	75%
卵	32%	35%	33%	31%	29%
牛乳	48%	52%	45%	42%	38%

事業概要	【物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金充当事業】
------	---------------------------

県産畜産物消費拡大応援事業

9,680千円

県内消費者に対し、メディアを利用した情報発信や料理講習会などを通して県産畜産物の魅力を伝え、消費購買意欲を高める。

〔想定イメージ〕

〔畜産応援プロジェクト(仮)〕

- テレビ番組による産地や産品紹介番組
特別番組：1回 ミニ番組：2回
- 新聞広告・雑誌特集記事(産地紹介、レシピ等)
新聞広告：4回 雑誌記事：2回
- SNSによるデジタル広告配信
広告配信：10か月(5月～2月)
- 料理講習会の開催
開催数：3回(キッチンスタジオ等を想定)
対象者：50名/回

〈事業スキーム〉

```
graph LR; A[県] -- 委託 --> B[民間事業者]
```

委託期間：令和7年4月～令和8年2月を予定